

令和 3 年度

事業所名 : グループホームたろう

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200129		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームたろう		
所在地	〒027-0096 岩手県宮古市崎鍬ヶ崎9-39-1		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から8年目の施設です。3.11東日本大震災でホームを流失、2年後に現在の場所に移転、再建しております。ホーム内は日当たりも良く、直接、窓からウッドデッキを行き来する事が出来る為、天気の良い日には気分転換に、日向ぼっこやレクリエーションをすることができます。コロナ禍にて、ご家族や地域の方との交流や関りが少なくなってしまうですが、共用型デイサービスの利用者様共にこの環境の中で職員、入居者様が今出来る事を継続しながら、今笑顔で過ごせるよう試行錯誤しながらも楽しく生活しております。又、震災から10年という節目に理念を『思いあい 共に過ごす時間を大切に』に変更。職員も入居者様、利用者様がお互い支え合って、生活しております。この時間を、大切に、共に歩んで行きたいと考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田老地区にあった施設が震災の津波で流失し、現在地に移転再建して8年目を迎えている。利用者、職員皆が立ち直る視点から策定した従来の理念を、震災10年目の昨年度、利用者と職員が共に笑顔で今を暮らしていけるよう、「思い合い共に過ごす時間を大切に」に見直した。「ユマニチュードケア」や「キョーメーションケア」の理論や技法に学びながら、「出来ること、やりたいこと」をケアプランの目標に掲げ、利用者の方々の暮らしが笑顔に満たされるよう、職員全員で一人一人の利用者に寄り添いながら支援に取り組むグループホームである。また「認知症対応型通所介護(共用型)」も運営し、月曜日から金曜日3人が利用者の仲間になってデイサービスを受けており、地域の在宅認知症高齢者支援に貢献するとともに、コロナ禍の中で、デイサービス利用者との交流はホームの暮らしに刺激を与えてくれている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年8月27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	東日本大震災から10年の節目になるという事で、理念を令和2年に『今日を大切に生きる』から『思いあい共に過ごす時間を大切に』に変更。今、入居者様が何をもとめているのかを常に考え、共有する時間を笑顔で過ごせるようケアの提供をしている。	震災の津波体験から「今日を大切に生きる」を理念としてきたが、10年を経過したことを機に昨年度、職員皆で見直し、利用者の皆さんが共に笑顔で今を生きていかれることを新しい理念(「思い合い共に過ごす時間を大切に」)に込めた。利用者が他の皆さんから感謝され、笑顔に満たされるよう、「出来ること、やりたいこと」をケアプランに盛り込み、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、行事等での交流の機会を作れていない。唯一、デイサービスが外からの良い刺激となっている。又、散歩がてらに近所のコンビニに足をのばす等し、認知症への理解促進の機会を作るよう努めている。	地域活動が自粛される中で、ホームも地域との交流が途絶えがちだが、ホームでは「認知症対応型通所介護」(共用型)を運営しており、月曜日から金曜日3人が利用者の仲間になってデイサービスを受けている。また、看護学院学生の受け入れや支援学校生徒による清掃等のボランティア活動等、外部との繋がりを大切にしている。近所の方々から野菜等の差し入れもあり、感謝している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県立看護学校での認知症サポーター養成講座は毎年行っている。看護学校や支援学校の実習受け入れを行っている。市民講座、寸劇参加、認知症カフェの開催はコロナ禍が落ち着き次第、再開したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年の2月より開催出来ていない。会議録のみ作成。事業所内でカンファレンスにて職員間で共有している。	コロナ禍の中で昨年2月以来、会議を開催しておらず、資料送付による意見等の聴取も行っていない。運営状況や行事の様子などはお知らせしている。運営推進会議委員からは、何かお手伝いしたいがと、声をかけられている。	4月以来のホームの運営や利用者の暮らしぶりをまとめた資料を委員に送付することにより、書面による運営推進会議を開催し、委員から意見や提案をいただくことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で解決できない困難事例等、地域包括支援センターに相談し、助言をいただいている。又、認知症事例検討の際の地域ケア会議への参加をしている。	虐待対応、成年後見制度の活用等、困難ケースについては、地域包括支援センターと連携して対応している。ホームとしては、市担当課職員が参加している運営推進会議を中止している現在、地域ケア会議やメールで担当課職員と情報交換を行っている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームたろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、帰宅願望のある利用者様には、散歩やドライブなどの気分転換の工夫をしている。法人内の研修には、毎年全職員参加している。又事業所内では、スピーチロックなどの身体拘束に関して、自己チェックする機会を設け、自らの気づきにと投げている。	「身体拘束適正化委員会」は、市内の法人系列の施設合同で組織しており、担当職員が参加し、決められた対策等を職員会議等で周知、徹底している。職員個々が「スピーチロック、虐待自己チェック表」(高齢者権利擁護センター編纂)により自己評価しながら、拘束や虐待のないケアサービスに努めている。また、年2回の法人主催の研修で勉強する他、eラーニング等で自己研鑽に努めている職員もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修に参加している。法人内での職員のストレスチェックを行ったり常に職員間で話し合い虐待が見過ごされる事のないよう防止に努めている。又、職員個々の心身の健康管理に注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内全体勉強会に参加している。又、申請の際には確認し支援の体制を作っている。入居、通所共に現在利用している方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居サービス前に面談、担当者会議、見学の際に説明し疑問点や不安を聞き取り充分理解、納得していただいた上で契約するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、各担当が『お知らせ』にて利用者様の健康状態や生活の様子を記してご家族へ郵送している。コロナ禍で面会制限がある中でも、ご家族様が訪ねて来て下さり、不安や悩みを伺っている。又、世間話の中から様々な情報収集ができ活用している。	面会制限をお願いしている中でも、顔を見に来訪する家族が少なくなく、情報交換を行いながら意見、要望等を確認している。居室担当者が毎月、本人のスナップ写真を添えて生活の様子を「お知らせ」で伝える他、3ヵ月毎に行事や日常生活の様子を写真で編集した広報紙を発行している。設備や周辺環境について助言をいただくなど家族の皆さんがホームを気にかけてくれ、ありがたいと感じている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談、月1回の業務会議の他、日常の業務の中で職員の意見、提案を聞き取り業務や活動に反映している。	毎月、同じ日に「業務会議(職員会議)」、「カンファレンス」、「勉強会(研修)」を組み合わせ開催しており、それぞれ職員から活発な意見が出る。管理者は、法人の「人事評価制度」や「目標管理制度」での個人面談の際にも、職員から運営に関する意見、要望等を聴取している。設備や備品の要望の他、勤務シフトの見直し、有給休暇の取得推進等、法人全体で取り組む「働き方改革」に関する意見も少なくない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに設定した個人目標の進捗状況を把握し評価している。就労時間帯や休日希望を毎月聞き取り、勤務表を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量、経験年数に応じて研修参加、資格支援を行っている。法人内での異動が多く、10代、20代の職員には業務やケアの他、社会人としての常識や振る舞い等、ベテラン職員が月指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の6ホームのホーム長会議を毎月開催。相談室室長、居宅所長に同席してもらい、情報交換を行っている。又、グループLINEにて、情報共有、不明な点がある場で解決出来るようになった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	長期入居希望の利用者様には、デイサービスや、お試しでショートステイを利用して頂き、ホームの入居者様や職員と顔馴染みになる事によって安心してサービス利用出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にケアマネと自宅訪問。本人様と一緒にホームの見学に来ていただき、ご家族の要望や不安を聞き取り、疑問点について説明、納得を頂き、安心して利用出来るよう努めている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームたろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請時にご家族、居宅ケアマネから情報を頂き、本人様の状況、ご家族様の要望を把握し、ホーム内で検討を行う。又、他事業所との連携も担当者会議等で行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者の得意な事や楽しい、嬉しい事を把握しており、お互い助け合いながら、役割を持った生活が出来るよう、工夫している。又、利用者様が職員の相談にのったり、的確なアドバイスを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、物品購入にてご家族の協力を得ている。コロナ禍で、外出や外泊にて家族で過ごす時間を作れていないが、希望されたご家族様にはスマートフォンにて写真や動画を送るなど工夫をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、面会制限かかっているが、お互いの顔が見える様、玄関窓越しでの面会を行っている。窓越しで声が聞こえない為、会話を仲介する等、配慮している。 買い物や外食にも出れない為、ドライブにて馴染の地域や場所を走るなど工夫している。	近所の方や知人、お弟子さんなど馴染みの皆さんが面会に来てくれていたが、止まってしまった。馴染みの床屋さんによる髪の手入れも中断しており、白髪染めやパーマもなかなかできない状況になっている。実家周辺や思い出の場所、海岸などにドライブに出掛け、車窓から景色を楽しんでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々に、お気に入りの場所があり、それぞれの場所で、作業をしたり会話を楽しんでいる。それぞれに、声を掛け合い、出来ることで手を貸したり、職員は、見守り、トラブルが起きる前に対応出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居されても、退院後のサービスの導入の相談、支援の為、病院連携室と共に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや、希望を伝える事の困難な利用者様にもご家族から情報を頂いたり、日常生活の様子から本人様の気持ちをくみ取り、笑顔で安心して過ごせるよう努めている。	大半の利用者が自分の意思で話すことが出来るが、思いと話の内容が食い違うことがあり、午前や午後のお茶の時間を使うなど、ゆっくりと本人の気持ちを汲み取るようにしている。また、やってみたいことやお手伝い等の役割への希望も把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人、ご家族、居宅ケアマネから情報を頂き、課題分析に反映させ、職員が周知し、不安なく生活が継続出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事、出来ない事を把握し、職員が手伝う事によって、出来る事は、継続して出来るよう支援に努め、自信をもって生活出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、月1回のカンファレンスにて現状を把握し職員間で共有している。職員が意見を出し合い、気付きやアイデアをケアプランに反映させている。ご家族の意向も面会時に確認している。	毎月、カンファレンスで居室担当者のモニタリング資料をもとに職員間で話し合い、利用者個々の状況の変化に合わせ、必要なプランの変更を行っている。基本的には、6か月毎にプランの見直しを行っており、計画作成業務を兼務する管理者は、本人、家族からの要望や意向、職員の気付きなどを活かしながら、本人に最適なケアプランの作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状況は個別ケースに記録している。職員間で情報を共有しながら、状況が悪化しないよう、申し送りを徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族のニーズに応じて、送迎時間、面会時間の配慮、ショートステイの受け入れ、勤務者の人数、その時の状況に応じて、臨機応変に対応している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームたろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて、地域資源の活用が出来ていない。 入居者様の唯一の楽しみが、看護学生の実習受け入れで交流する事となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には、ご家族の協力を受け、主治医にはホームでの生活が継続出来るよう、生活状況を報告、相談している。又、週一回の訪問看護との連携、緊急時、夜間、休日には県立病院の協力を頂いている。	殆どの利用者が利用開始前からのかかりつけ医に通院しており、家族の同行を基本としている。複数の通院先を1本化したり、ホームの協力医の県立病院に変えた人もいる。新型コロナ感染防止のため、定期通院の場合は、電話で職員が症状や体調を説明し、診断なしで薬を出してもらうことも可能になっている。歯科は必要時に協力医の訪問治療を受けている。法人系列の訪問看護ステーション看護師から週1回利用者の体調や健康管理について指導、助言を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約しており、週一回の定期訪問時に、通院記録、体調の変化を報告。24時間対応で急変時には訪問、指示を受け受診している。年2回の訪問看護師による勉強会を開催している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療連携室と連携をとり家族と共に早期退院にむけ行動している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化及び看取り指針についてご家族に説明。ホームで出来る事を説明しご家族の意向を確認し同意を頂いている。入居者様の状態の変化に応じ、ご家族、主治医と相談しホームでの生活を継続出来るよう検討していきたい。	介護度の高い利用者への介護サービスを充実していくため、昨年度から、法人系列の市内6グループホームの間で連携、協力しながら、介護度に応じた入居調整を行なっている。利用開始時に、医療連携体制が出来ていないことから、看取りが近づいた場合は、他施設入所か入院をお願いすることで本人、家族から同意をいただいている。また、重度化した場合には、医療行為を必要としない限りは、ホームでの介護支援を継続することとしている。	

事業所名 : グループホームたろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は法人内の講習会に参加。ホーム内でも年に一回、異動時や必要に応じて勉強会を行っている。ホーム内にはAED、誤嚥時の吸引ノズルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の他、土砂災害、地震による緊急招集訓練、火災による国道封鎖の為の旧道の確認をおこなった。自動火災通報装置には地域協力者の番号も登録されているがコロナ禍にて訓練参加は出来ていない。	本年度は、ホーム単独で5月に夜間想定の方災避難訓練を実施した。6月には職員の非常時招集訓練を行い、4人の職員は5分以内に到着出来ることを確認した。避難経路として国道45号線が渋滞したり、通行止めになった場合を想定し、旧道や間道のルートも設定している。同一法人運営の介護老人保健施設やグループホームが隣接しており、共同で「防災委員会」を設置し、災害に対する連携、協力体制を築いている。	夜間避難訓練を午前中に実施しているが、日中では予測できない問題点や課題の発見に繋がることもあることから、訓練時間を薄暮時に設定したり、夜間に職員が利用者に代わり車いすで避難してみるなど、可能な限り夜間に近い条件の中での訓練を工夫されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人柄や思いに沿った声掛け、関わり方『目配り、気くばり、心配り』を掲げ、入居者様が笑顔で穏やかに過ごせるよう全職員が常に心掛けている。	理念にある、思いやりを形にして笑顔にすることを心がけ、日々の生活の中で、得意なことや出来そうな役割を提供し、自分で決めて取り組んでもらい、笑顔を引き出せるよう、利用者個々に寄り添っている。利用者同士のトラブルもそれぞれの気持ちを理解するよう努め、自分達で解決できるようサポートしている。人目に触れないでトイレ、お風呂に行ける通路を確保するなど、プライバシーにも配慮した施設設計になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、入浴、外出等本人の希望を聞いたり、意思疎通の困難な方は様子を見ながら対応するよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の状態や気分配慮し、思いのまま自分のペースで過ごして頂けるよう努めている。居室で一人で過ごしたいという時には、安否確認しながら見守り、外出の希望があれば、時間を調整しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新しい服や衣替えの際には、「素敵ですね、お似合いですよ。」と声を掛け気持ちよく生活出来るように支援している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホームたろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に決めたり、職員は、味付けや作り方を入居者様から教わっている。食後の片付けや茶わん拭きも無理のない程度に手伝っていた。誕生日や行事の際には、何が食べたいか聞き、リクエストに答えるようにしている。	予め献立表は作成せず、当番の職員(朝夕は夜勤者、昼は日勤者)が冷蔵庫の食材をもとに利用者とメニューを相談し、時には作り方や味付けを教えてもらいながら調理している。誕生日等の行事食では、バイキングなど変化のある楽しめる食事を提供している。職員は昼食時には利用者と一緒に食卓を囲み、食後の茶わん拭きなどを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、個々の水分摂取量を記録している。水分を摂りたがらない入居者様には、時間を分けて提供したり、カップの工夫をしている。排泄記録も参考にし食事提供しており、月一回の体重測定を行い、栄養バランスを考え工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて介助や用具を使用している。又、月1回、歯科医師による口腔衛生管理が行われている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握。時間を見ながらトイレ誘導する事によって失敗の回数を減らせるよう支援している。	日中は全員がトイレを使用している。介助が必要な車いす使用の2人を除き、見守り支援が中心である。リハビリパンツから布パンツに改善した人が3人おり、他の人の励みになっている。排泄パターンの再チェックによる的確なトイレ誘導で失禁を減らすよう努めている。夜間は3人がポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食材の工夫、無理のない体操や歩行が可能な入居者様には散歩にて運動量を確保している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により毎日入浴可能。入居者様のその日の、状況、体調気分にあわせ、入浴支援している。	1日置きの後半の入浴を基本としているが、毎日入浴している人もいる。行事のある日は午前入浴で対応している。三面介助可能な個浴であり、車いす使用の人も職員2人で対応し、安全に入浴してもらっている。今年の夏は暑く、シャワー利用が多かったが、これからは、職員とゆっくり会話しながらリラックスタイムを楽しめるよう支援したいとしている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームたろう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに合わせ安眠出来るよう、昼夜逆転している入居者様には、日中の活動量を増やすなどの支援を行っている。夜間、徘徊や訴えのある入居者には、安心して休まれるまで傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬の効果、副作用を『お薬説明文書』にて理解している。症状の変化がある時には、受診時に主治医への報告、相談をしている。処方薬の変更時にはご家族への報告と経過観察し、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、今出来る事を継続し役割を持って生活できるよう支援している。又、日常の会話の中から楽しみ事を引き出し行事やドライブにて気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や職員の勤務状況によって、ドライブや散歩、希望に沿って出掛けている。コロナ禍にて地域ボランティアやご家族の協力を得ての外出等、出来ていないが、落ち着いたら行事等、企画していく。	天気の良い日にはウッドデッキに出て外気浴をしているものの、コロナ禍の折り、今まで日課としていたホーム周辺の散歩を大幅に制限せざるを得ず、利用者もストレスを感じている。そのため職員の提案で、6月に皆で海を見に田野畑までドライブをしアイスクリームを食べて帰ってきた。利用者皆の良き思い出になっている。希望の多い職員と同伴での買い物外出も自粛している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名、自分でお金を管理している入居者様があり、欲しい物は自分で選んで帰るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎ、本人希望の際には時間に配慮しながら、ご家族と会話出来るよう支援している。又ご家族様からのお手紙は居室の壁に貼る等している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームたろう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は日当たりが良く、冬でも暖かい。天気の良い日はウッドデッキにでて、レク活動を行う等、外の空気を吸い気分転換が出来る。ホール内は季節のディスプレイを行い、季節を感じる事が出来るよう、工夫している。又、対面式のキッチンになっている為、毎食、職員が調理する様子を眺められ、入居者様の楽しみの一つとなっている。	ホールは吹き抜けで太い木の梁が交差しており、明るく開放感がある。畳敷きのスペースは休憩や洗濯物たたみ等、多様な使い方が出来る。ウッドデッキは日光浴や外気浴の他、レク活動にも使われている。流しソーメンの舞台になったり、先日は、七夕夏祭りをホーム内だけで実施し、屋台形式で焼きそば、おでん、たこ焼きなどを楽しんだ。壁面にちぎり絵など、季節感のある利用者の作品を飾り、明るくアットホームな共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内は広く、ソファや畳、数多くの椅子を設置している。思い思いの場所で、好きなように過ごす事が出来ている。利用者同士でおしゃべりをしたり、ソファや畳間で横になって休まれている方もおり、遠くからでも職員が見守りしやすいような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や私物の持ち込み可能。又、用途によって椅子やテーブルを本人希望の場所へ設置している。それぞれ、テレビや、家族写真、トロフィーや位牌を持ち込み居心地よく過ごせるようにしている。	居室はホールを囲むように配置され、ホールから死角の居室はない。ベッド、クローゼット、チェスト、洗面台が備え付けになっており、床暖房とエアコンが設置されている。利用者の希望に沿って居室のレイアウトを行い、家族の写真や絵手紙、好みの小物を飾り、個々の利用者が自分好みに落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室にはそれぞれ目印を付け、歩行が不安定な入居者様はトイレの近くの居室にし、安全に自力でトイレを利用できるようにしている。		